

成果指標				
成果指標	(当該年度の間伐材加工量+素材生産量) / (昨年度の間伐材加工量+素材生産量) × 100			
指標設定の考え方	昨年度の間伐材加工量+素材生産量と比較することで当該年度の林業機械の導入や製材機械による事業効果を測る。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	97.6%	100%	0	0
実績	100%以上	99%	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	年度途中で計画変更が生じたが、概ね計画通りに事業実施ができた。平成26年度は補助制度が変更になることから、関係者と協議を行いながら事業を行う。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	内需振興型産業である林業・木材産業の再生には、林業機械の導入や製材施設の整備等は不可欠であるが、特に第三セクターにおいては、過剰な事業投資とならないよう、事業効果を十分精査したうえで慎重に導入する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題